

[平成 28 年 7 月 4 日]

鉄建建設株式会社 経営戦略室 広報部

東京都千代田区三崎町 2-5-3 〒101-8366

TEL 03-3221-2297 FAX 03-3221-29379

建設技術総合センターで大学生の実習授業

～鉄道工学で学んだことを、実際の設備で～

■鉄建建設株式会社（本社：東京都千代田区、社長：林 康雄）は7月2日、日本大学理工学部交通システム工学科が開催する「鉄道工学実習授業」に協力する形で、同大学の3～4年生および教職員113名を建設技術総合センター（千葉県成田市）に招待しました。鉄道工学実習授業は建設技術総合センターで毎年開催され、本年度で4回目となります。本物の設備を使った講義を通じて、鉄道工学で学んだ内容をより現実的なものとして身につけてもらう目的で実施しています。

■建設技術総合センターの鉄道施設や建設工事に関わる設備や機械などは、すべて本物で構成されています。設備の構造にも工夫がなされ、研修で活用できるようさまざまな仕掛けが施されています。同大学の授業のひとつに、線路が直線から徐々にカーブへと変化する区間の曲線（緩和曲線）の計算があります。研修施設の線路とホームの一部は、この変化する曲線で作られており、実際に授業で学んでいる計算手法が、構造物の構築にも役立てられています。講師役の社員から、「授業で学ぶことがそのまま鉄道工事で活かされている。」「しっかり授業で身につけてほしい」と、熱のこもった解説が続き、学生のまなざしも真剣そのものでした。



曲線ホームを見通す学生たち

■実習授業を終えた学生からは「とにかく面白い。鉄道工事や設備の仕組みなどへの興味がより高まった。」「通常触れることのできない架線に触れた。やわらかいイメージを持っていたが、硬く棒のようで驚いた。」などの感想をいただきました。同大学理工学部の轟 朝幸教授からは、「机に座って写真を見て授業で学ぶことと、実物を目で見て触れることは大きく異なる。鉄道工事がより身近になるとともに、学生達にも良い刺激になったと思う。」とコメントをいただきました。



説明を聞く学生



架線に触れる学生



線路の高さを確認する学生

■建設技術総合センターでは、今後も建設業界の次代を担う学生たちに建設業の魅力を伝えるため、施設を利用していただきたいと考えています。

以上